

アカクローバはイネ科牧草との  
混ぜ播きによって栽培される  
マメ科牧草で、牧草の栄養価  
を高めたり、窒素肥料の代わり  
を果たす働きをします。「ナツユウ」  
はイネ科牧草との相性に優れ、  
利用できる年数の長い新品種  
です。

おいしさ、  
深化。

by 北農研



チモシーとの相性ぴったり・丈夫で長持ち

アカクローバ新品種

ナツユウ

# マメ科牧草 アカクローバの新品種 「ナツユウ」の特徴

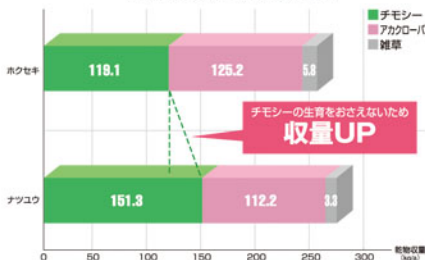


## 1 生育が穏やかでイネ科牧草・チモシーとの相性がぴったりです

春の刈り取り後(2番草)の生育が穏やかで混ぜ播き相手のイネ科牧草・チモシーの生育をおさえません。草地全体の収量が高くなり、良好な植生を維持することができます。



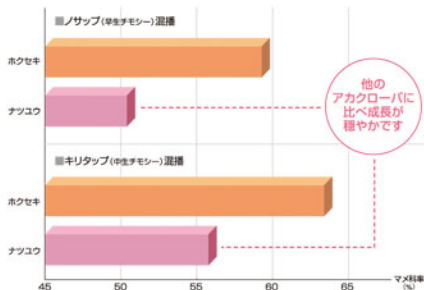
[3年間の合計乾物収量(道内5ヶ所平均)]



※試験に用いたチモシー品種は「ノサブ」、「ホクセキ」は北海道の主要品種

## 2 早生から中生のチモシーに合います

[チモシーとの混播栽培におけるマメ科率(全乾物収量中のアカクローバの割合)]



※3年間の2番草の平均値。ノサブは全道5ヶ所、キリタツプは札幌と北見の平均値

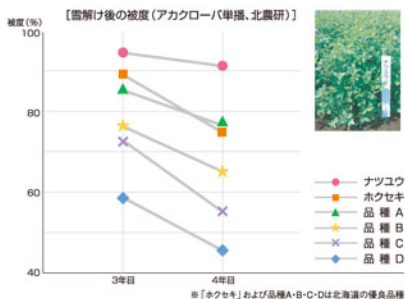
「ナツユウ」は道内の主要な優良品種と同じ熟期で早生に属します。これまでの早生のアカクローバと同様に早生のチモシーとの相性に優れますが、中生のチモシーと混ぜ播きしても大丈夫です。



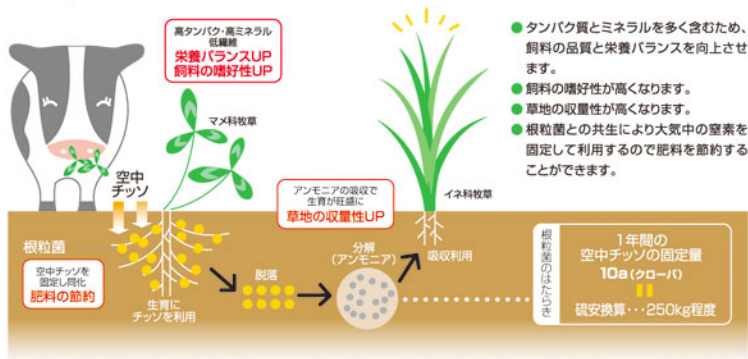


### 3 丈夫で長持ちです

今までアカローバは3年程度で草地から消えてしまうことが問題でした。「ナツユウ」は春の萌芽が良く、雪の下でおこる病気(菌核病)に強く、これまでの品種よりも長生きします。



### 4 マメ科牧草はいろいろな働きをします





### アカクローバは・・・

アカクローバは草丈が高く収量性に優れることからサイレー  
ジなど採草用として利用されています。雑草に負けない  
初期生育性の良さと酸性土壌に対する適応性の高さが  
あり、北海道の風土に適した栽培が簡単な牧草です。おい  
しくて安全な牛乳づくり、草作りに役立っています。



北海道農業研究センター

【情報資料課】TEL 011-857-9260

<http://cryo.naro.affrc.go.jp/>